



令和7年度 取組のまとめ

～推進状況報告書～



令和8年6月

緑区役所 緑区社会福祉協議会 緑区地域ケアプラザ

第4期緑区地域福祉保健計画 「みどりのわ・ささえ愛プラン」 推進状況報告書

活用の仕方



第4期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、各地区の特性を踏まえた「地区別計画」、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が地域と協働し取り組む「区域計画」で構成されています。

地域の課題解決に向けて、区民・事業者・行政が協働しながら計画を推進しており、本報告書はその取組をまとめたものになります。年度ごとに推進状況を振り返るとともに、掲載された取組を参考に、今後の取組に生かしていくことを目的として発行しています。

1 計画の概要を知りたい！

- 「第1章 計画の概要」をご参照ください
緑区の地域福祉保健計画の内容、特徴などを紹介しています。

2 自分の住んでいる地域の取組を知りたい！

- 「第2章 地区別計画」をご参照ください
区内11地区それぞれの取組などをまとめています。

3 緑区全体の取組や推進状況について知りたい！

- 「第3章 区域計画」をご参照ください
「地区別計画」における各地区共通の課題に対応する「重点項目 A」と、区域での課題に対応する「重点項目 B」の主な取組などを紹介しています。

4 他にどんな情報が載っていますか？

- プラン講演会の報告を載せています
みどりのわ・ささえ愛プラン講演会の様子と内容を掲載しています。

令和7年度 推進状況報告書

— 目次 —



第1章 計画の概要

1 地域福祉保健計画とは	1
2 第4期緑区地域福祉保健計画について	1

第2章 地区別計画

1 地区別計画とは	3
2 令和7年度地区別計画の推進について	5
東本郷地区	7
鴨居地区	9
竹山地区	11
白山地区	13
新治中部地区	15
三保地区	17
山下地区	19
新治西部地区	21
十日市場ヒルタウン地区	23
霧が丘地区	25
長津田地区	27

第3章 区域計画

1 区域計画の推進について	29
2 各重点項目の振り返り	31
3 参考指標について	37
4 みどりのわ・ささえ愛プラン講演会（第44回緑区社会福祉大会第2部）	39

(表紙中面) 推進状況報告書 活用の仕方

第1章 計画の概要

1 地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画は、誰もが身近な地域で安心して暮らせるまちをつくるため、地域の福祉保健を推進するための基本理念や課題を明らかにし、課題解決に向け、市民・事業者・行政が協働で取り組む計画で、社会福祉法第107条に基づきます。横浜市には、市全体の計画である市地域福祉保健計画と、区ごとに策定する区地域福祉保健計画があります。

また、地域福祉の推進を目指し、地域住民・福祉保健等の関係団体や事業者等が地域で主体的に進めていく計画として、社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画があります。

それぞれの計画は相互に補完・連携し、役割分担をしていくものであることから、横浜市では、わかりやすい計画となるよう策定のプロセスを共有し、整合性のとれた一つの計画として一体的に策定しています。これにより、行政や市民、地域福祉活動団体、ボランティア、事業所など、地域に関わる人々にとって、より協働しやすく、より実効性のある計画となっています。

緑区でも、緑区地域福祉保健計画と緑区地域福祉活動計画を一体的に策定しています。

2 第4期緑区地域福祉保健計画について

ア 計画期間

令和3年度から令和7年度

イ 基本理念及びその考え方

基本理念「誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして」は、全体目標（目指す姿）「一人ひとりが主役・共に支えあう つながりのあるまちづくり」とともに計画全体の総合的な指針として、第3期計画のものを継承することとしました。

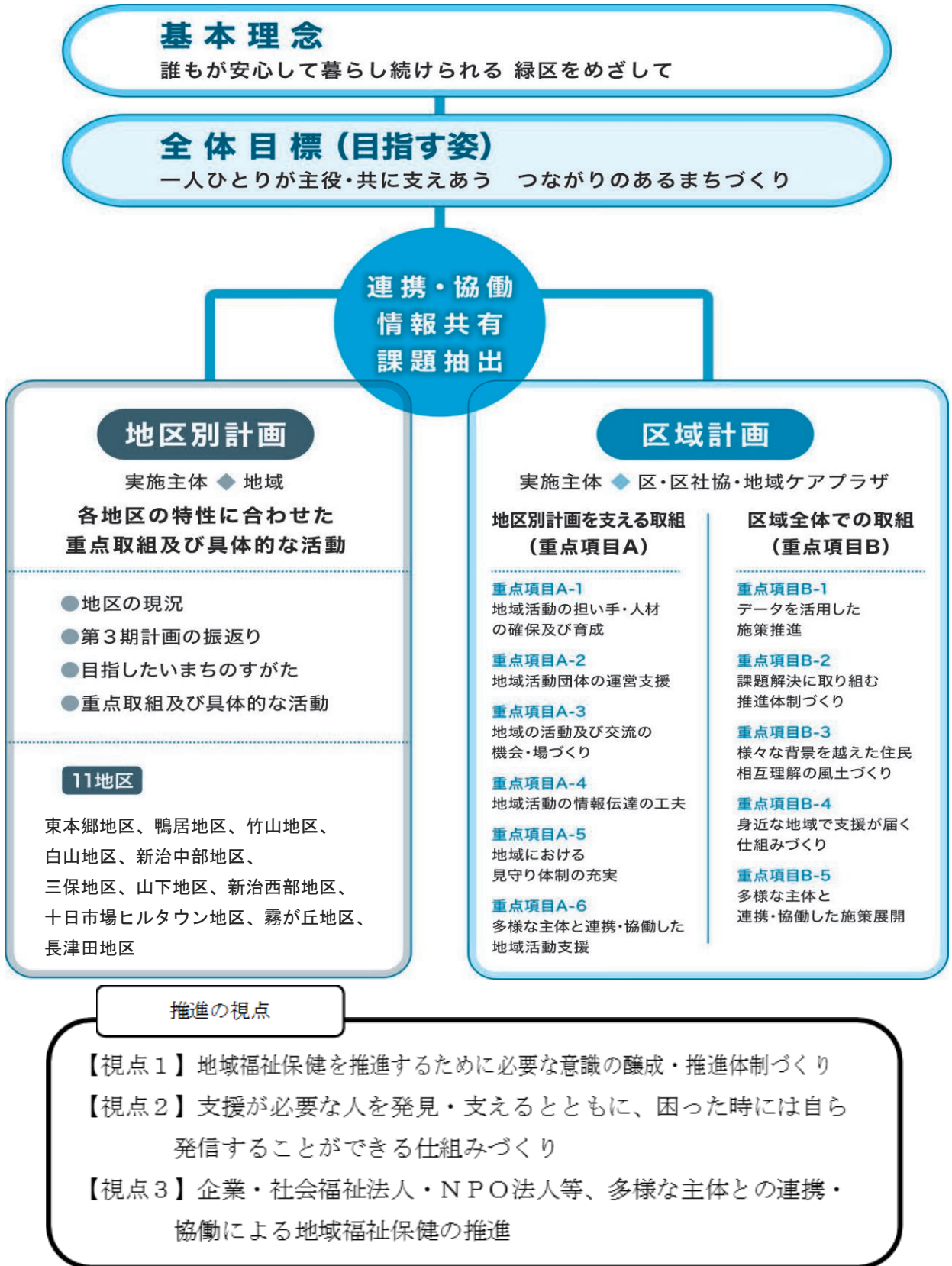
区民の誰もが、身近な地域で安心して暮らし続けられるまちづくりの実現を目指していくことが必要です。区民一人ひとりが、自分の持つ力を十分に発揮し、心豊かに充実した生活を送ることができるよう、区民、団体、事業者等が協働で、共に支え合い、区民同士のつながりのあるまちづくりを進めていきます。

ウ 地区別計画と区域計画の関連性

基本理念の実現を目指して、「地区別計画」及び「区域計画」を推進します。「地区別計画」については、各地区の特性に合わせた重点取組や具体的な活動を掲載しています。

一方、「区域計画」の重点項目については、各地区共通の課題解決のための重点項目としての「地区別計画を支える取組」と、区域の課題解決のための重点項目としての「区域全体での取組」の2つの性格のものを掲載しています。

なお、第4期計画では「地区別計画」と「区域計画」の関わりをより強調することにより、各地区共通で挙げられている課題の解決のために「区域計画」が支援することを明確化する構成としました。



第2章 地区別計画

1 地区別計画とは

区内の11 連合自治会・地区社会福祉協議会単位で開催される「地区別計画推進策定委員会」（以下、「地区別委員会」という。）が中心となって、各地区の特性を生かした地区別計画を策定しています。

各地区の「目指したいまちのすがた・スローガン」の実現を目指し、地区別委員会が中心となり、地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、地域福祉保健の推進に係る各種の情報の共有・意見交換や振り返りを行っています。

地区別計画

各地区の「目指したいまちのすがた」と重点取組



① 東本郷地区

地域が息づき、みんなが安心・安全を感じ、住んでよかったと思えるまち 東本郷

- 重点取組 1** これからも、安心・安全な地域でつながり、支え合い、一緒に楽しみを共有します
- 重点取組 2** 地域の情報を誰もが入手しやすくします
- 重点取組 3** テーマ別の課題解決に向けて、地域の団体が連携して取り組みます

② 鴨居地区

あなたが主役 地域が舞台
人情あふれる街・鴨居
～住み続けたい鴨居 笑顔をあなたに!!～

- 重点取組 1** 地域で支え合い、つながりを大切にするまちを目指します
- 重点取組 2** 安全・安心のまちを目指します

③ 竹山地区

安全に安心して仲良く暮らせる街づくり

- 重点取組 1** 様々な地区活動やボランティア活動等の体制づくりを進め、担い手の負担軽減に取り組みます

- 重点取組 2** 見守りが必要な人についての情報共有の工夫や知りたい情報を正確に迅速かつわかりやすく知らせる工夫に取り組みます
- 重点取組 3** 世代間・団体間の交流を実現できる体制を構築します

④ 白山地区

白山の自助・共助・近助による安全・安心な
コミュニティづくり～白山の絆で団結しよう！～

- 重点
取組 **1** 〈福祉〉
孤立化を防ぎ、つながりを広げよう
- 重点
取組 **2** 〈子どもの健全育成〉
子育てしやすい地域づくりをめざそう
- 重点
取組 **3** 〈防犯〉
地域の防犯力を高めよう
- 重点
取組 **4** 〈防災〉
地域の防災力を育もう
- 重点
取組 **5** 〈環境〉
ごみ・美化・地球温暖化などの課題に地域で取り組もう

⑥ 三保地区

ゆるやかな見守りや支え合いのできる
仲間づくり

- 重点
取組 **1** 地域でのつながりを大切にし、活動を活発
にしたい
- 重点
取組 **2** 活動・交流を通じた見守り・支え合い

⑧ 新治西部地区

あいさつを元気に交わそう！
笑顔あふれ 集い楽しむ 新治西部

- 重点
取組 **1** 地域の中で顔の見える関係を築き、交流を
深めていきます
- 重点
取組 **2** 地域情報を多くの住民に届けられるように
していきます
- 重点
取組 **3** 次世代に活動をつなげられるよう取り組みます

⑩ 霧が丘地区

防犯・防災・教育 日本一の街 霧が丘

- 重点
取組 **1** 活動できる機会・場を通してつながりを
大切にすまちづくり
- 重点
取組 **2** 安全・安心・健康のまちづくり

⑤ 新治中部地区

次世代まで安心して笑顔で
暮らし続けられるまち

- 重点
取組 **1** 防犯・防災に強い安全・安心のまちづくり
- 重点
取組 **2** 住民同士の顔の見える関係が築かれた
まちづくり
- 重点
取組 **3** 次世代につながるまちづくり

⑦ 山下地区

地域のつながりや支え合いのある誰もが
元気で暮らし続けられる街をめざして

- 重点
取組 **1** 住民相互の見守り、見守られる支え合いの
まちづくり
- 重点
取組 **2** 地域での「つながり」を大切に、「健康」で元気に
暮らし続けられるまちづくり
- 重点
取組 **3** 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり

⑨ 十日市場ヒルタウン地区

誰もが「住んで良かった」「住み続けたい」まち
十日市場団地

- 重点
取組 **1** 地域での「見守り」を進め、支え合える地域に
していきます
- 重点
取組 **2** 地域活動を充実させ、地域の中で「つながり」を
つくっていきます
- 重点
取組 **3** 地域の情報の発信に取り組みます

⑪ 長津田地区

向こう三軒両隣、様々な世代がおたがいさまで
つながる長津田のまち、笑顔と元気は地域の
宝物、いいよね長津田！希望のまちへ！

- 重点
取組 **1** おたがいさまの輪を大切に、地域の身近な
ところでのつながりづくり
- 重点
取組 **2** 情報の受発信・伝達の工夫
- 重点
取組 **3** 次世代を見据えた住民同士の交流

2 令和7年度 地区別計画の推進について

地区別計画推進策定委員会開催状況

東本郷地区

- 第1回 令和7年6月29日
テーマ:①第4期計画について、②3つの専門委員会より(報告)、③ひがほん郷まつりについて、④第5期計画の素案について
- 第2回 令和7年11月29日
テーマ:①第5期計画について、②専門委員会について、③ひがほん郷まつりについて

鴨居地区

- 第1回 令和7年5月31日
テーマ:①第4期までの計画について、②第5期計画に向けて、今後の取組(意見交換)
- 第2回 令和7年11月15日
テーマ:①第5期計画について、②計画内容と表紙について(意見交換)

竹山地区

- 第1回 令和7年7月24日
テーマ:第5期計画の3つのテーマに分かれて、目標と行動計画について(意見交換)
- 第2回 令和7年12月5日
テーマ:第5期計画について、策定経過や第5期計画に込めた思い、計画内容について

白山地区

- 第1回 令和7年6月28日
テーマ:①第5期計画案について、②第5期計画で取り組んでみたいこと(意見交換)
- 第2回 令和7年11月22日
テーマ:福祉・防災・防犯について、第5期計画の取組と今後のスケジュールを検討

新治中部地区

- 第1回 令和7年7月12日
テーマ:①第5期計画について、②計画を進めるためのアイデア出し、③地区別リーフレットに掲載する活動について(意見交換)
- 第2回 令和8年1月24日
テーマ:①第5期計画で新たに取組めそうなこと、②活動の工夫について(意見交換)

三保地区

- 第1回 令和7年8月30日
テーマ:①第5期計画について、②実現するためにできること、③地区別リーフレットに掲載する活動について(意見交換)
- 第2回 令和8年1月31日
テーマ:①第5期計画について、②計画を進めるためのアイデア出し

山下地区

- 第1回 令和7年9月18日
テーマ:①地域福祉保健計画について、②第5期計画案について、③第5期計画案の内容、スローガン、掲載する写真等に関する意見交換
- 第2回 令和8年2月17日
テーマ:①第5期計画案について、②第5期計画推進にむけた意見交換(学校や学生との連携を通じて、どんな取組をしていきたいかについて)

新治西部地区

- 第1回 令和7年8月27日
テーマ:①「みんなでわくわく街歩き」の実施について、②第5期計画素案について、③重点取組項目に関する具体的な取組について(意見交換)
- 第2回 令和8年2月27日
テーマ:①「みんなでわくわく街歩き」の実施報告について、②第5期計画について、③第5期計画推進にむけた意見交換(計画の推進に向けて、各団体が困っていることについて)

十日市場ヒルタウン地区

- 第1回 令和7年8月29日
テーマ:①第5期計画素案について、②子育て世代の集える場について、③今後の活動について(意見交換)
- 第2回 令和8年2月6日
テーマ:①子育て世代の集える場について、②第5期計画について、③第5期計画の推進について意見交換(見守り、つながり、子育てをキーワードに)

霧が丘地区

- 第1回 令和7年6月21日
テーマ:①第5期計画策定について、②第5期計画案と各団体の取組について(意見交換)
- 第2回 令和7年11月22日
テーマ:①第5期計画案について、重点項目や取組、計画に込めた思いの共有
②計画に関する活動の紹介

長津田地区

- 第1回 令和7年8月31日
テーマ:①向こう三軒両隣3つの部会の進捗報告について、②第5期計画の素案について、③「地域全体で取り組むこと」として重要なこととは(意見交換)
- 第2回 令和8年1月25日
テーマ:①3つの部会からの活動報告、②第5期計画について、③第5期計画において地域全体でどんなことに取り組めるかについて(意見交換)



東本郷地区

<エリア> 東本郷1～6丁目、東本郷町

【活動の概要】

東本郷地区では、例年、「ひがほん郷まつり」を開催しています。今年度は、会場を改修中の東本郷小学校から、東本郷地域ケアプラザと下田公園に移して開催しました。さらに今回は、「ケアプラザまつり」と共催で行いました。当日は、たくさんの子どもたちをはじめ、幅広い世代の方が来場され、とても素敵なイベントとなりました。

次年度から始まる第5期計画では、「未来につなぐ 明るい東本郷」をスローガンに、地域みんなで、取組を進めていきます。

キーワード

地区内の連携

つながりづくり

東本郷地区の取組紹介

【重点取組と具体的な活動①】

ひがほん郷まつりは、0歳～100歳までだれでも集えるまつりとして毎年開催されています。今年度は、改修中の東本郷小学校に代わり、東本郷地域ケアプラザと下田公園を会場に、ケアプラザまつりとの共催となりました。オープニングでは、小学校1年生が「ひがほん音頭」を披露しました。ステージでは、フラダンスやコーラス、ハイハイレースが行われ、熱気に包まれました。5年生の「水ようかん」は、お客さんの列が切れることなく大好評でした。

下田公園では、青少年指導員とスポーツ推進員のブースに子どもたちが集まりました。

ケアプラザのブースでは、保健活動推進員の健康チェック、タブレットを使ったデジタルアートのワークショップも人気がありました。

ケアプラザと下田公園での開催は新しい取組となりました。コンパクトなスペースに楽しみを盛り込むことができ、地域のつながりが深まる機会となりました。



【重点取組と具体的な活動②】

東本郷地区では、健康づくりの「ラジオ体操」が毎日ボランティアにより各地で行われています。住まいの近くに活動する場所があり、いつでも参加できる環境が住民の健康を支えています。

11月に高齢者の集いが開催されました。尿漏れパッドのお話や社協やケアプラザの利用についてもお伝えすることができました。

朝ごはんを食べる会の活動も継続され、子どもたちにとってかけがえのない場所となっています。こどもの居場所の整備についても計画しています。

継続していく力が地域の安心につながっています。



【第5期計画策定の活動】

地区別計画推進策定委員会を開催しました。

第5期計画では、だれにでもわかりやすい計画にすることを目標に話し合いを進めました。

東本郷の街を「郷(ふるさと)」と表現しました。地域にとって大切な「人」「場」「情報」をキーワードに行われる活動が思い描けるように言葉を選びました。子どもだけではなく、外国にルーツを持つ方にも伝わるようにルビをふりました。

新たにプロジェクトミーティングを立ち上げ、地域の重点課題として「高齢者」「こども・子育て」「防災・防犯」への取組を開始することを確認しました。

「未来につなぐ明るい東本郷」をキャッチフレーズに思いを込めました。



鴨居地区

<エリア>鴨居1～7丁目、鴨居町

【活動の概要】

鴨居地区では、地区別計画推進策定委員会にて、第4期計画の振り返りを行うとともに、鴨居地区の課題や目指す姿、目標について話し合いを重ねてきました。

高齢化や若者の減少、共働き世帯の増加等の社会的背景から、鴨居でも自治会やボランティア活動をする方が減っており、担い手不足が課題となっています。

第5期計画では、『あなたが主役 地域が舞台 人情あふれる街・鴨居～住みたい街・住み続けたい街 鴨居 笑顔をあなたに～』を目指し姿とし、行事やイベントなどを通じて仲間をつくり、活動を継承できる「鴨居の人になろう」、そして困っている鴨居住民のためにできることをする、「一人は鴨居のために 鴨居は皆のために」を目標としました。

今後も人と人とのつながりを大切に、取組を継続していきます。

キーワード

見守り・
支え合い

交流の場

鴨居地区の取組紹介

POINT

第5期地区別計画を策定しました！



みどりのわ・ささえ愛プラン第5期地区別計画を策定しました。令和8年度からの5年間の取組について、会長をはじめとした検討会メンバーで案を作成し、地区別計画推進策定委員会で話し合いを重ね、一年かけて作成しました。

「地域みんなで支えあう鴨居をつくらう」を目指して、地域活動への参加までの道のりと地区で活動している団体を掲載しており、鴨居の魅力がたっぷりと載っている計画が完成しました。この計画をもとに地域活動や団体・イベントを推進していきます。



竹山地区

<エリア>竹山1～4丁目

【活動の概要】

竹山地区では、誰もが安全に安心して暮らせる地域を目指して、住民や関係団体、ボランティアが連携した地域づくりを進めています。誰もが気軽に集える場として竹多久で開催している「カフェぶらり」や、民生委員・児童委員が運営する「元気会」と「いちょうの会」は、見守りの場や居場所づくりとなっています。

また、移動販売は遠くまで買い物に行かれない方の身近な買い物の場であるとともに、地域住民の貴重な交流の場となっています。

さらに、竹山地区の公園や集会所などでは定期的に「ラジオ体操」や「グランドゴルフ」、「ボッチャ」が開催され、NPO 法人 KUSC が運営する「竹山セントラル・竹山エアラボ」でも、世代を超えて健康づくりに取り組んでいます。

引き続き、第5期計画でもこれらの活動を継続し、地域全体で支え合う仕組みづくりを推進していきます。

キーワード

交流の場

見守り

健康づくり

竹山地区の取組紹介

カフェぶらり

～誰もが気軽に集える場所～



地域密着型カフェ・竹多久で開催している「カフェぶらり」は、認知症の方をはじめ、誰もが集える交流の場です。ボランティアを中心に運営され、地域の方々がふらっと立ち寄れる場所、見守りの場所となっています。施設の目の前には池が広がり、大きな窓からの季節ごとに姿を変える景色を皆様楽しんでくださいました。



カフェぶらりでは、介護や認知症に対する疑問に答えるため、地域ケアプラザの職員も参加しました。

竹山地区は地域サロンが充実！

民生委員が運営する交流の場「元気会」、ミニデイとしてスタートしレクリエーションを充実させた「いちょうの会」、さらに竹生クラブでは誕生会を発展させたイベントを行っています。元気会といちょうの会は隔月で開催し、毎回趣向を凝らした企画で参加者を退屈させません。



竹山セントラル

～健康・つながり・まちづくりの拠点がオープン～

令和7年4月より、旧横浜銀行跡地に、「竹山セントラル・竹山エアラボ」がオープンしました。神奈川大学サッカー部をサポートするNPO法人KUSCが運営し、神奈川県住宅供給公社、神奈川大学、竹山連合自治会とともに地域住民の運動・交流の拠点となるよう、プロジェクトを進めています。

各種運動などのスタジオとなる「竹山セントラル」では登録人数が増えており、利用された住民からは「階段の昇り降りですりを使わなくなった」、「生活の質が上がった」といった声がありました。



学生から高齢者まで、様々な方たちが世代を超えて健康づくりに取り組むコミュニティスペースです。

運動の場は他にも…

ラジオ体操やグランドゴルフが、地区内の公園で定期的に行われているほか、サザンヒルズ竹山は月に1回、ボッチャを行っています。大人だけでなく、お子さんも楽しんでいきます。



小売2店舗の移動販売

～買い物に困難を抱えないまち～



多い拠点では毎回30名を超えるご利用がありました。

竹山地区では、2社が移動販売を実施しており、地域の皆さんにも定着しました。このうち1社が店舗のリニューアルオープンで販売中止(令和8年2月)となりましたが、同グループの店舗が引継ぎ、同年3月に一部再開となりました。買い物が困難な方の支援だけでなく、見守り合いの機能を持ち、挨拶を交わす貴重な場所となっています。

今後は、販売拠点を充実させる一方、新しい買い物支援対策も検討していきます。

第5期みどりのわ・ささえ愛プランが完成

令和8～12年度を対象期間とする第5期計画が完成し、「ふる里 竹山 安全に安心して仲良く暮らせる街づくり」を主題に掲げ、「健康づくり」「つながり」「見守り・見守られ」の観点から、目標を示しています。



コアメンバーによる素案づくり、地域の代表による話し合いを経て、5か年に及ぶ計画ができあがりました。



白山地区

<エリア>白山1~4丁目

【活動の概要】

白山地区では、第4期地区別計画の期間中(令和3~7年度)に農業体験、夏休みのラジオ体操、白山健康福祉マージャンなど、新たに地域の方が交流できる場ができました。

また、より多くの方に情報を届けたいという思いから、白山連合自治会のホームページを充実させ、3か月ごとのイベントが掲載されたイベントカレンダーを作成しました。

そしてこれらの取組のほかにも、防災(白山2時間ルール)の周知、防災講座など、防犯(防犯パトロールなど)についても活動を続けてきました。

これらの取組を通じて、第5期計画では地域の中での居場所づくりを増やし、見守りのネットワークを広げていきます。

キーワード

多世代の
つながり

交流の場

見守り

白山地区の取組紹介

第5期地区別計画を策定

「見守りのネットワーク ささえあいまち白山」を主題に掲げ、第5期みどりのわ・ささえ愛プランができあがりました。福祉・防災・防犯を重点的な取組として示し、イベントや地域の事業を写真付きで紹介しています。計画期間は令和8年度から12年度までで、見守り合えるまちづくりを進めていきます。



福祉

会える・集える・笑える場づくり

防災

防災に強いまちづくり

防犯

地域の防犯力を高める

みどりのわ・ささえ愛プランの第4期計画が最終年度を迎え、福祉、子どもの健全育成、防犯、防災、環境の各重点取組を具体化しました。このうち次期計画でもポイントとなる、3項目について取組を紹介します。

福祉：孤立化を防ぎ、つながりを広げる



世代を超えて誰もが集える場として、白山地区では多くのイベントを開催しました。令和7年11月に「白山まつり」が緑小学校で行われ、多くの方が参加しました(写真上)。

種付けしたサツマイモが秋に実り、親子で収穫する農業体験も行いました(写真下)。

夏休みラジオ体操や新年の書初め・川柳大会を通じ、住民同士のつながりを深めました。



防災：地域の防災力を育もう



令和7年度は夏と冬の2回、防災訓練を鴨居中学校で実施しました(写真は地下貯水槽訓練)。ハマッコトイレの設置や避難所開設訓練など災害時を想定したプログラムを体験し、理解を深めました。

また、毎月、無線訓練も行っています。



防犯：地域の防犯力を高めよう



防犯パトロールによる犯罪の未然防止だけでなく、住民の皆さんも気軽に参加できるよう呼びかけ、住民意識を高めました。「声かけは防犯の第一歩」を合言葉に、パトロールが健康づくりや情報収集にも役立つことを伝え、多くの方に参加を促しました。



新治中部地区

<エリア> 台村町、森の台、寺山町、中山1～6丁目、上山1～3丁目

【活動の概要】

新治中部地区では、「次世代まで安心して笑顔で暮らし続けられるまち」を目指し、子どもから高齢者まで多世代が参加できるイベントや行事を企画し、顔の見える関係づくりに取り組んでいます。

地区別計画推進策定委員会では、第5計画策定に向けた検討と次期計画で重点的に取り組みたいことについて話し合いました。たくさんの活動のアイデアが出され、地域のつながりも深まっています。

キーワード

顔の見える
関係づくり

防犯・
防災

世代間
交流

新治中部地区の取組紹介



新治中部地区連合自治会
会長 白井孝一

地域には年齢・性別・障害の有無・国籍の違い等、様々な立場や背景のある方々、生活に困りごとを抱えている方々、…一人ひとり違う個性や考え方の方々が、生活しておられます。

新治中部地区連合自治会としても地域の福祉保健活動を支援しながら、安心・安全に暮らせるまちづくりに取り組んでいます。活動の一端として、防犯・防災において、地域ふれあいフェスティバルでは、児童・生徒に防犯・防災のキャッチフレーズを募集しています。生徒と家族と一緒に考えてもらい、防犯・防災の力を高めていくことを目的に実施しております。

防災拠点は4拠点で、学校・PTA及び地域で連携して防災意識を高め、いざという時の災害に備えています。町の美化・緑化活動は街を歩く人々を癒し、犯罪の防止にも役立っています。学校・家庭・地域で連携して、児童・生徒を見守り育て、地域愛が深まることを願っております。

誰でも安心して暮らせるまちづくりを目標として、高齢者から子ども達まで世代を超えた支え合いの輪を広げ、顔の見える関係づくりを大切に活動を進めております。

高齢者支援では、連合自治会と連携して高齢者食事会を実施し、民生委員・児童委員の協力を得て支援物資の配布などを行っています。

また、子ども・家庭支援の一環として地域課題についての意見交換会を実施し、学校・家庭・地域が一体となって子どもの育成に努めています。

その他にも、防犯・防災キャッチフレーズの募集を通じて、防犯・防災意識の向上を図り、安心・安全について地域全体で実践しています。

新治中部地区では、これらの取組を常に連合自治会や地域で活動している諸団体と連携して活動を進めています。今後も行政や関係団体の支援・協力を得ながら、世代を超えた地域づくりを進めてまいります。



新治中部
地区社会福祉協議会
会長 齋藤宏和

《地域ふれあいフェスティバル》

11月22日(土)午前中、中山中学校体育館で開催された「地域ふれあいフェスティバル」は、『青少年の非行防止と健全育成』の願いを込めて始まったイベントで、今年で第26回を迎えます。新治中部地区6自治会共同による活動で、防犯・防災キャッチフレーズの表彰は今年で13回目となります。



来賓の緑区長、緑消防署長、緑警察署防犯課長の皆さまから一言をいただき、防犯・防災キャッチフレーズの表彰式では、最優秀賞4名(小中学校各1名)、優秀賞32名の子どもたちに賞状とキャッチフレーズのポスター授与を行いました。中学2年生233名、3小学校5年生261名の応募者があり、どれも考えられたキャッチフレーズで選考には非常に迷いました。

また、応募者全員に記念品を贈呈しました。



その後、中山中学校吹奏楽部による演奏を楽しみ、地元在住のシンガーソングライター(ピアニスト)の伴奏により、参加者全員で童謡中心の合唱を行い、秋のひとときを過ごしました。保健活動推進員による健康チェックも行い、参加者が体脂肪や血流のチェックを実施しました。

《高齢者食事会・お楽しみ会》

食事会ボランティアの皆さんと民生・児童委員の連携により、9月4日(木)に実施しました。高齢者38名、役員を含めて73名の参加があり、和気あいあいとした楽しく豪華な食事会となりました。

また、7月10日(木)には、例年バス旅行で実施していた高齢者お楽しみ会を、漫才師「世界事情」のお二人による防犯漫才と、口笛世界大会入賞者の方による口笛演奏を演芸鑑賞として実施しました。

その後の仕出し弁当での会食も和やかに行われました。



《地域活動役員研修会》

連合自治会と地区社会福祉協議会の合同研修会として、11月18日(火)に田園調布学園大学の村井祐一教授を迎え、講演と演習を実施しました。

自治会役員、地区社会福祉協議会役員、区役所担当者など、合わせて30名程度が参加しました。「地域づくりと次世代の担い手づくり」のテーマのもと、参加者は次世代の自治会についての大きな示唆を持ち帰ることができました。

また、スマホで「ちいきのちから診断シート」に回答し、地域の特徴や現状を共有しました。

《みどりのわ・ささえ愛プラン意見交換会》

学校(小中4校)、家庭(PTA 役員)、地域(各自治会役員)、民生委員・児童委員の参加により、年2回の意見交換会を実施しています。今年度は7月と1月にそれぞれ2時間程度、『みどりのわ・ささえ愛プラン』地区別計画に従って、どのように地域の連携を進め、実際の活動に活かしていくかについて話し合いました。学校と家庭、学校と地域、それぞれの連携はある程度行ってきましたが、地域と家庭の連携についてはまだまだ課題を感じる話し合いとなりました。今後の地域イベントなどで家庭からも参加を募り、地域と家庭の連携強化を進めていきたいと考えております。



三保地区

<エリア> 三保町

【活動の概要】 ~支え合いのできる仲間づくりのために~

三保地区では、日頃からお互いを見守り、支え合うことができるよう、「仲間づくり」を大切にした取組を進めています。掲載している活動のほかにも、健民祭やこどもフェスタ、三保地区ウォークラリー大会などさまざまな行事を開催しており、どの活動も笑顔あふれる、楽しいひとときとなっています。

また、令和7年7月からは『三保ちよい助プロジェクト』を試行的に開始し、「草取り」「電球交換」「家具移動」「パソコン・スマホの操作支援」をメニューに実施しました。令和8年7月からはいよいよ正式運用となります。

今後も、ゆるやかにそして楽しく仲間づくりに取り組んでいきます。

キーワード

見守り・
支え合い

多世代の
つながり

交流の場

三保地区の取組紹介



◆ 三保地区すこやかクラブの活動紹介 ◆



私たち、フォレストヒルズ三保の当団地が所有する雑木林内の低木の剪定や下草刈り及び、倒木撤去作業等のボランティア活動を、当初管理組合から、すこやかクラブ(老人クラブ)へ協力依頼があり「絆グループ」の名称で立ち上げました。

活動効果としては、まず、手入れ費用が従来の業者に支払う金額から大幅に削減されるようになりました。その他には、暗かった林が明るくなり、不法投棄がなくなり、通学路になっている坂道も暗くてさみしい場所だったところが改善され、防犯上も良くなりました。

現在、活動メンバーは19名いますが、うち1名は女性も参加されていて、グループも活気づいております。

また本活動を機に、一般の居住者からすこやかクラブへの入会希望者がありました。絆クラブのメンバーからは「健康のためにやっている」「皆でやるのが楽しい」「地域に貢献していることが実感できる」等の感想が寄せられています。

絆グループが発足してから令和9年1月に10年目を迎えますが、居住者の方々の理解も深まり、家の庭木の枝払いや周囲の草の除去の依頼要請が管理組合経由で増えています。

居住者の中には、差し入れをくれたり、挨拶をしてくれる方が増えてきました。年々雑木林は大きくなります。立ち枯れの木々も多く現存していますが、我々も年を取っていきますので、若い居住者にも参加を呼び掛けながら、月2回の活動を楽しみ、安全第一で健康のために頑張っている今日この頃です。

すこやかクラブ代表 三浦康彰

◆ 三保地区グランドゴルフ大会の紹介 ◆

令和8年3月8日(日)三保小学校校庭にて、第18回グランドゴルフ大会を開催しました。天気も良く約70名もの皆様にご参加いただき、盛り上がった大会となりました。今回初めて、小学生が参加(6名程度)してくれましたが、笑い声も聞こえ楽しくプレイしてもらえたと、嬉しく思っております。

私たちスポーツ推進委員は、これからもスポーツを通じて地域の皆様と健康第一をモットーに全力で貢献できるように取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

スポーツ推進委員連絡協議会会長
三浦 元司



◆ 三保ミニデイお楽しみ会の紹介 ◆



テーブルの上には豪華なお弁当、フルーツポンチ、小さなケーキ、可愛いお花まで飾ってありました。雰囲気はすっかりクリスマス。新しい年に向けての干支の折り紙作りはもう十数年と続いている様です。

後半ではギター演奏がありました。懐かしいビートルズで皆、大いに盛り上がり、歳を忘れてはしゃいでしまいました。美味しいお弁当と楽しいお喋りで、久しぶりに心の底から楽しんだひと時でした。

フォレストヒルズ三保在住 下条玲子

◆ 押しかけ健康チェックの紹介 ◆



三保地区保健活動推進員会では令和6年度より『多くの方に健康を意識してもらい、地域に根差した健康づくり』を目的に、【押しかけ健康チェック】の活動を始めました。各自治会が主催するイベントに保活が出張する事で、気軽に自分の健康管理の動機づけとなり、元気に年齢を重ねていく上で興味と関心を促進していただけたらと考えています。

測定結果が実年齢より若く評価されて元気になった・思っていたより滑舌が悪くなっていた・家では計測できないので今後も続けてほしい・楽しかったなどの感想をいただき私たちの励みにもなっています。

保健活動推進員会会長 浜辺啓子



山下地区

<エリア>西八朔町、北八朔町、小山町、青砥町

【活動の概況】

山下地区では、「ネットワークサロン」のように、地区内で活動している団体やグループが「つながり」を作りながら、取組を進めています。

また、「生活支援」にも力をいれており、「山下地区ボランティアセンター」の取組を、コロナ禍を乗り越えて継続しています。

そのほか、第4期計画期間中は、様々なイベントを通じ、交流の場やつながりづくりも継続しています。

次年度から始まる第5期計画では、「世代をつなぐ出会いとささえ愛があるまち 山下」をスローガンに、引き続き、取組を進めていきます。

キーワード

つながりづくり

支え合い

山下地区の取組紹介

【山下地区活動支援】

《山下ネットワークサロン》

平成28年から山下地区にサロンを立ち上げ、一時は各自治会がサロンをオープンし活発に活動していましたが、コロナもあり、現在は10団体のサロンが高齢者や子育て世代への居場所を提供する活動を行っています。

サロンではおしゃべりだけでなく、脳トレのプリント、スカットボール、輪投げをみんなで一緒に行ったり、演奏会などのイベントが開催され、工夫しながら活動しています。また山下みどり台小学校4年生がサロンに参加し高齢者と交流しています。

年に2回、山下ネットワークサロン交流会を行っており、各サロンの課題などの意見交換を実施しています。



《山下地区ボランティアセンター》

これまでの経緯と現在の状況について

平成31年に山下連合自治会員対象（4,805名）としたアンケート調査結果から、困りごととして「草むしり・枝切り・電球交換・家具移動・部屋掃除・買物支援」が上がりました。この結果をもとに上記4項目について対応すべく、山下地区ボランティアセンターの活動を始めました。

依頼内容としては、「草むしり・枝切り」が最多で、担い手として専門技術がありなおかつ力仕事ができる人材が必要である状況となっています。

実施件数は、令和3年度78件、令和4年度85件、令和5年度84件、令和6年度87件、令和7年度78件と、令和4年度をピークに横這い状況です。依頼内容の8割が草むしり・枝切りに偏っており、ボランティアのやりくりが厳しくなっています。今年度より夏場の暑い時期は、草むしり・枝切りのボランティア活動は中止としているので活動件数が減っています。

その他、買物便として、ささえあいバスが火曜日から金曜日で運行されています。1日平均乗車人数は、10人前後となっています。

令和2年1月に本格活動をスタートしてから6年が経ち、ボランティアの高齢化も進んでいる状況ですが、北八朔公園で小中学生が清掃のボランティア活動をしたり、スポーツイベントでは若い世代がスポットボランティアで活動しています。



新治西部地区

〈エリア〉新治町、十日市場町（十日市場ヒルタウン除く）、長津田みなみ台6・7丁目の一部

【活動の概要】

第4期期間中は、「あいさつを交わそう！ 笑顔あふれ 集い楽しむ新治西部」をスローガンに取組を進めてきました。第4期期間中には、コロナ禍を乗り越えて実現した、「みんなでわくわく街歩き」も始まり、今年度、4回目の開催を迎えました。年々、工夫を重ね、子どもから高齢の方まで幅広い世代が楽しめる、地区を代表する行事となりました。

来年度から始まる、第5期計画では、「次世代と共に 人の輪つなげる 新治西部」をスローガンに取組を進めていきます。

キーワード

地区内の連携

つながりづくり

新治西部地区の取組紹介

「みんなでわくわく街歩き」

今年度で4回目となる、新治西部連合自治会の街中を舞台にしたスタンプラリーイベントが開催されました。家族や身近な人とグループを組んで、どなたでも参加できる形式です。

各自治会館をスタート地点とし、公園や公共施設などのチェックポイントの中から、参加者が自分で行きたいポイントを選び、散策を楽しみました。

🌟 当日の様子

今回のイベントには計 370 名が参加し、幼児から一般まで幅広い年代の方々が参加されました。

各公園、図書館、地区センター、ダイエーなど 15 か所にポイントを設置しました。ポイントには、スタッフ 108 名に協力いただき、様々なゲームを実施しました。コロナ以降、地域でも様々なイベントが増えたことで、開催日が月末になりました。内容については、十日市場町山桜公園→第二公園に変更したり、ゲームは青少年指導員やスポーツ推進委員の提案でストラックアウトを導入したりと工夫をしました。

🌟 来年度に向けて

来年度も「人と人がつながる」ことを目的に、継続して実施したいと考えています。

周知方法として、学校の協力をお願いしたり、ポスターの工夫を検討したりして、進めたいと思います。

「みんなでわくわく街歩き」 当日の様子



チェックポイントでは様々なゲームを通してみんなが顔見知りになって、あいさつしあえるようになっていいね。次回もお楽しみに！！

第5期の計画で新治西部地区が、もっともっと輝けるよう率直な意見を出しあいましょう。

第5期に向けて

2回の推進会議で第4期の振り返りを行い、第5期計画ができました。

「次世代と共に人の輪つなげる新治西部」

重点取組1 「あらゆる世代が共に活動します」

★参画の工夫 ★顔の見える関係作り

多世代が関われる機会の工夫や、学校、地域、家庭の連携を通して地域活動をつなげます。

重点取組2 「地域情報を手軽に届けます」

★世代を超えて ★届けたい人への情報発信として

自治会を知る機会を作ったり、ちらしを子供目線で作ったりなど工夫を図ります。



みんなの意見を聞いて今後さらに話し合いを進めます。



十日市場ヒルタウン地区

<エリア>十日市場町（十日市場ヒルタウン地区）

【活動の概要】

十日市場ヒルタウン地区では、これまで「誰もが『住んで良かった』『住み続けたい』まち十日市場」をスローガンに、様々な取組を進めてきました。「夏まつり」や「お茶飲み会」など、これまでの行事や取組を継続しながら、様々な団体が「コラボレーション」することで、内容の充実を図ってきました。

次年度から始まる、第5期計画では、「ささえ愛のまち 十日市場ヒルタウン」をスローガンに掲げ、より一層、つながりを大切にしながら、取組を進めていきます。

キーワード

地区内の連携

つながりづくり

十日市場ヒルタウン地区の取組紹介

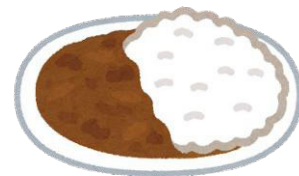
今年度は、夏祭りや防災訓練に加え、「みんなでカレーを食べましょう」や「もったいない～ありがとう」など、これまでの取組を継続しながらコラボレーションを意識して充実させました。



▲ 夏祭り



▲ みんなでカレーを食べましょう



▲ 花植え



▲ もったいない～ありがとう

💡「お茶飲み会」

毎月一回、十日市場ヒルタウンにお住まいの皆さまが気軽に集い、お茶を飲みながら楽しいひとときを過ごす場を提供しています。

今年度は、お茶菓子を楽しみながらの交流や、昨年度よりさらに充実したクリスマス会を開催し、笑顔あふれる集いの場となりました。

また、民生委員・児童委員や地域ケアプラザとも連携し、より多くの皆さまにご参加いただける活動を展開してきました。



色々なコラボ
をしました



💡子育て世代(養育者)の集える場

昨年度の委員会で提案された、子育て世代が集える場として「養育者のつどい」が誕生しましたが、コアメンバーの減少もあり、現体制では継続困難という事で一時休止としています。子育ての課題はあるので、引き続き検討課題とすることとなりました。

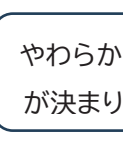
💡その他の取組

近年、ヒルタウン内では「移動販売」が活発になってきています。移動販売が自宅の近くまで来ることで、高齢になっても自分の目で商品を選びながら買い物を楽しむ機会が生まれます。

さらに、買い物支援にとどまらず、介護予防や地域の交流の場としても活用しようとする動きが広がっています。



第5期に向けて意見交換
をしましょう



やわらかい名文
が決まりました

第5期計画を作りました。

令和8年度からの第5期計画が策定されました。

「ささえ愛」のまち十日市場ヒルタウン

重点取組1 見守り 地域で見守りを進めささえあえる地域に

重点取組2 つながり 住民同士の「つながりのわ」を

重点取組3 情報 各団体がコラボしお互いの情報を発信共有



霧が丘地区

<エリア>霧が丘1～6丁目

【活動の概要】

霧が丘地区では、『防犯・防災・教育 日本一の街 霧が丘』をスローガンに掲げ、住民同士のつながりを大切にしまちづくりに取り組んでいます。

地域のさまざまな団体が連携し、誰もが気軽に参加できるイベントや行事を行うことで、子どもから高齢者まで世代を超えた交流が、霧が丘地区で広がっています。

第5期計画でも引き続き、住民同士のつながりを大切に、地域全体で見守り合えるまちづくりに取り組んでいきます。

キーワード

つながり

見守り

霧が丘地区の取組紹介

霧が丘健康チェックの日

つながりづくりのための
イベントがたくさんあるね！



「霧が丘健康チェックの日」は、地域の皆さんが気軽に健康づくりや介護予防について考えるきっかけとなるよう、保健活動推進員と霧が丘地域ケアプラザがケアプラザ開所当初から続けている活動です。連合自治会の協力により全戸にチラシを配付しており、その甲斐もあって、参加者も少しずつコロナ禍前の状況に戻ってきています。最近では、お友達同士で誘い合って来られる方も増えてきました。

血圧測定や体組成測定などの健康チェックに加え、参加後にはおしゃべりや相談ができる時間を設けています。ケアプラザでは、地域の方同士が交流できる場づくりを大切にしています。

また、今年度からは活動前にラジオ体操を行い、保健活動推進員自身も健康への意識を高めながら活動に取り組んでいます。今後も気軽に立ち寄れる地域の健康づくりと交流の場として続けていきたいと考えています。



霧が丘どんど焼き & 霧が丘新春歩こう会



霧が丘では、新春の行事として毎年『霧が丘どんど焼き』と『霧が丘新春歩こう会』を行っています。

『霧が丘どんど焼き』は、霧の里ができる以前から連合自治会を中心に続けてきた霧が丘の恒例行事です。お正月のお飾りやお供え物をそのままごみに出すのではなく、無病息災や家内安全を願いながら地域でお焚き上げをしています。持ち寄られたお飾りは環境事業推進委員の皆さんが分別を行います。民生委員・児童委員や保健活動推進員の皆さんが豚汁を作ります。スポーツ推進委員は焼き鳥、青少年指導員は綿あめを用意するなど、地域の様々な団体が役割を分担しながら行事を支えています。お飾りを持ってきた方も食べ物を楽しみながら会話がはずみ、地域の方同士が交流できる場となっています。



また、『霧が丘新春歩こう会』は、霧が丘スポーツ推進委員が中心となり、霧が丘青少年指導員会の協力で行っています。当日は霧が丘の地域内を40分ほど歩きました。参加者同士でおしゃべりをしながら歩くことで、初めて参加した方でも自然と顔見知りができ、新しいつながりが生まれています。歩いた後には豚汁も振る舞われ、子どもから高齢者まで世代を超えて交流できる新年の行事となっています。



霧が丘ではこのような行事を通して、地域の団体や住民同士のつながりが広がっています。



長津田地区

〈エリア〉

長津田1～7丁目、長津田町、いぶき野

長津田みなみ台1～5丁目、6・7丁目の一部

【活動の概要】

長津田地区では、「向こう三軒両隣でともに支え合うまち」を目指して、取組を進めています。取組を進めるにあたっては、「高齢者福祉部会」「ささえあいネット部会」「子ども・子育て部会」が中心となっており、それぞれが活発に活動しています。

それぞれの部会で、地域の事業者や様々な団体と協力して、取組を検討・実施しており、地域みんなで取組を進めていくための土壌ができてきています。

来年度から始まる、第5期計画でも、「向こう三軒両隣 ～あいさつでつながりあえるほっとするまち長津田～」を合言葉に、地域全体で取組を進めていきます。

キーワード

推進体制

見守り

子育て支援

長津田地区の取組紹介

地区別計画推進策定委員会

第5期地区別計画に向けて 検討された内容

第1回 スローガン「向こう三軒両隣～あいさつでつながりあえる、ほっとするまち長津田～」に決定！高齢者福祉、子ども・子育て、地域での見守り・支え合いの3つの分野について、地域全体で取り組みたいことについて話し合いました。

第2回 親子参加や情報共有等のアイデアや子育て親子へのお出かけマップ等の活用について、地域全体でどのように考えるかを自由に意見交換しました。



▲地区別計画推進策定委員会の様子

向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり運営委員会

「向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり運営委員会」は、地域の誰もが安心して生活ができるよう「高齢者福祉部会」「ささえあいネット部会」「こども・子育て部会」の3つの部会を中心に活動がすすめられています。

高齢者福祉部会

昨年度に引き続き高齢者や高齢者の家族に役立つ情報を届け、地域の方へ高齢者の理解をしてもらえるよう、自治会の集会所を利用して講座を開催しました。またケアプラザの行う認知症サポーター養成講座への協力を行いました。

☆出前講座の内容

「介護に備えて～知って安心・得する知識～」

（会場：東向地団地集会所、中村自治会館）

☆いぶき野小学校、田奈中学校での認知症サポーター養成講座に協力。



▲出前講座（中村自治会館）

ささえあいネット部会

☆「長津田ささえあいネット」見守り協力事業者意見交換会を12月に実施しました。

☆「長津田ささえあいネット」では、長津田地区の4つの医療機関と1つの金融機関が見守り協力事業者として登録していただきました。

☆見守りツール「ご近所ささえあいシート」を作成し、活用について検討をすすめています。



▲ご近所ささえあいシート



▲見守り協力事業者意見交換会

こども・子育て部会

☆長津田の親子がお出かけをする際に楽しくお出かけができるよう「長津田おでかけ会場マップ」を子育て支援グループに協力を得て作成し、活用について検討しました。



▲長津田地区おでかけ会場マップ



▲懇談会「長津田ってどんなまち？～聞こう話そう繋がろう～」

☆子育て世帯へのニーズ調査を目的として、長津田ってどんなまち？実行委員会（通称：「長どん」）を、こども・子育て部会に紐づいて立上げ、懇談会を行いました。

第3章 区域計画

1 区域計画の推進について

区域計画は、地区別計画と連携して、各地区が共通で抱える課題の解決や地区の先駆的な取組事例の拡充を目指します。

区域計画 重点項目とその取組内容

重点項目 A 地区別計画を支える取組

各地区共通の課題に対する区・区社協・地域ケアプラザの取組を掲載しています。

A-1 地域活動の担い手・人材の確保及び育成

地域活動の担い手の確保・育成のため、関係機関と連携した講座や研修、交流会等を通じて、ボランティアの交流や地域活動につながるコーディネートが進められるよう、必要な支援等に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1

A-2 地域活動団体の運営支援

地域活動の立上げや運営にあたって必要な支援制度や好事例等について情報提供を行うとともに、地域活動団体の交流を促進し、団体間のネットワークの構築・強化に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

A-3 地域の活動及び交流の機会・場づくり

地域で身近につながる機会・場づくりのため、地域活動が継続的に行われるよう支援するとともに、活動・交流の場としての地域資源の発掘等に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

A-4 地域活動の情報伝達の工夫

地域活動に関する情報を効果的に広く届けられるよう、情報伝達手法の工夫について学ぶことのできる機会を設けるとともに、区・区社協・地域ケアプラザのほか、関係機関や企業等の様々な広報媒体を活用した情報発信を進めるなど支援をします。

▶ 関連: 推進の視点 1・2・3

A-5 地域における見守り体制の充実

身近な地域で住民同士の顔の見える関係づくりが進められるよう、日頃の地域活動や講座等を通じた見守り意識の醸成を進めます。また、地域と商店等の事業者が連携して、見守りの体制が充実するよう、取組を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1・2・3

A-6 多様な主体と連携・協働した地域活動支援

地域活動を進める上で抱える課題の解決に向けて、社会福祉法人やNPO法人等の地域の事業者と連携・協働して、地域活動団体を支援します。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

重点項目 B 区域全体での取組

区域で取り組むべき課題に対する区・区社協・地域ケアプラザの取組を掲載しています。

B-1 データを活用した 施策推進



客観的なデータ等を活用した地域アセスメントを進め、地域とともに課題共有を行いながら、必要な施策や取組の検討、実施につなげていきます。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-2 課題解決に取り組む 推進体制づくり



専門機関が地域活動団体と連携し、区域の課題の解決に取り組むことができるよう、専門機関が参加する会議や地域活動団体の研修等の機会を活用し、ネットワーク強化に向けた取組を実施します。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-3 様々な背景を越えた 住民相互理解の風土づくり



疾病や障害など様々な背景を越えて、地域住民がお互いを尊重し支え合えるよう、多様性の理解を深めるための取組や、当事者及びその家族同士の交流に係る取組への支援を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-4 身近な地域で 支援が届く仕組みづくり



支援を必要とする人が適切な支援につながるよう、支援機関の役割・機能を周知するとともに、必要な時に支援機関につながり、相談等ができる機会を得られるよう、仕組みづくりや取組を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1・2

B-5 多様な主体と連携・ 協働した施策展開



区域の課題解決に向けて、企業や大学等と連携・協働することにより、それぞれの強みを生かしながら、区域の課題やニーズに対する取組を進めていきます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

推進の視点 についてくわしい
ことは、2ページにのっています。

ちろくちゃん

誰もが安心して、自分らしく健やかに暮らせる「よこはま」をみんなで作るため、まちの中を歩いて、人々を見守っています。

横浜市地域福祉保障計画のキャラクター



第4期の区域計画は、「各地区共通の課題解決のための重点項目（重点項目 A）」と「区域の課題解決のための重点項目（重点項目 B）」の大きく2つの項目で構成しています。従来の地区別の取組だけでは表面化しない個別課題の把握や解決に向けた取組を進めるとともに、重層的な地域課題を解決する仕組みづくりを引き続き進めていきます。

2 各重点項目の振り返り

重点項目 A 地区別計画を支える取組



A-1 担い手

重点項目 A-1 地域活動の担い手・人材の確保及び育成

- 担い手確保を目的に「居場所づくりの ABC」講座を、みどりーむ・区社会福祉協議会・区役所で開催した。実際に活動されている「お散歩カフェ」のボランティアに活動を紹介してもらうことで、地域活動につながった。
- 新たな担い手の発掘につながるよう、ボランティア活動を取材し、活動内容とボランティア募集について、区社会福祉協議会の広報誌や SNS で発信した。
- 地域ケアプラザが障害児者事業所と連携してボランティアの協力のもと、アート展覧会を開催した。
- 認知症サポーター養成講座を、地域ケアプラザや自治会、小中学校で開催した。

重点項目 A-2 地域活動団体の運営支援

重点項目 A-3 地域の活動及び交流の機会・場づくり



A-2 運営支援



A-3 機会・場

- キャラバン・メイト(※)を対象に、キャラバン・メイトのつどいを開催し、活動発表や認知症の当事者を講師にした研修会を行い、活動の支援を行った。
(※)キャラバン・メイトとは、「認知症サポーター養成講座」を行うボランティア講師のこと。
- 地域ケアプラザのデイサービスボランティアを対象とした「ボランティア感謝祭」を開催し、ボランティア同士が交流できる機会を作るとともに、活動が継続できるよう支援した。
- 地域ケアプラザでは、地域住民一人の声から「こども服のリユース会」開催へとつなげ、新たな地域活動の場を作った。
- 高齢者住宅の集会室を活用して、茶話会を中心とした地域住民が定期的に交流できる場づくりの支援を行った。
- 地域活動団体の立上げや運営に関する相談を受け、緑区ふれあい助成金や緑区地域課題チャレンジ提案事業等の助成金制度の活用につなげた。



A-4 情報

重点項目A-4 地域活動の情報伝達の工夫

- 区役所と区社会福祉協議会が連携し、区内の子ども食堂、学習支援、フリースペースなどの子どもの居場所をまとめた、「緑区こどもの居場所マップ」を作成し、区社会福祉協議会ホームページに掲載した。

- 緑区ホームページ内に、学齢期の子どもに関する情報を提供する「ミドリナビ」を開設した。大人向けの情報に加え、子どもが必要な情報にアクセスできるよう、子ども向けページも開設した。



▲緑区こどもの居場所マップ・一覧

- ブログ、YouTube、Facebook、Instagram、ホームページによる情報発信ができるよう、活動団体に技術的な支援を行った。

- より多くの方に情報を届けるために、地域にある企業や郵便局、商店街協同組合などとつながり、掲示や配架をして周知した。



A-5 見守り

重点項目A-5 地域の見守り体制の充実

- 昨年度に引き続き、見守りをテーマに地域ケア会議を開催。地域ケアプラザが導入した見守りチェックリストを掲載したクリアファイルや団地内の見守り機能をもつサロン立上げの事例を共有した。

- 地域ケアプラザが民生委員児童委員と情報交換会を実施しながら、必要に応じて個別レベル地域ケア会議を実施し、心配な方への支援等について話し合いを行った。

- 地域ケアプラザで団地内における移動販売の実施状況を整理したMAPを作成し、地域住民の会合や民生委員とケアマネジャーとの顔合わせ会などで配布し、情報共有を行った。

- 災害時要援護者支援事業の協定を締結している全地区に対して、事業周知及び個人情報保護研修を実施した。また、協定締結を検討している地区の希望に応じて事業説明を行い、見守りについて考えるきっかけを作った。

重点項目 A-6 多様な主体と連携・協働した地域活動支援



A-6 連携による支援

- 社会福祉法人の地域貢献として、施設の場所提供の提案があり、地域包括支援センターの出張相談、健康体操を開催した。
- 地域住民、協力事業所、地域ケアプラザが連携して行う見守り活動について意見交換会を開催し、地域の見守りチェックリストを作成した。また、活動周知を行い、新規事業者の登録につなげた。
- 地域包括支援センターが介護事業所、地域ボランティアと連携して、認知症カフェを開催したり、地元スーパーに健康講座の開催を提案し、その場で地域ケアプラザの周知活動を行った。

重点項目 B 区域の取組

重点項目 B-1 データを活用した施策展開



B-1 データ活用

- 食支援事業について、令和6年度の利用者の実績などを分析し、ニーズや相談の傾向などを関連の会議や地域での打合せで報告した。
- 移動販売を実施している地区において、高齢化率や利用者数などのデータを地域の支援者と共有し、地域コミュニティーの場となるよう活動を支援した。
- 地域が若い世代を対象に実施した「町の良いところ」を聞く住民アンケートをまとめ、地区別計画推進策定委員会で結果を共有した。
- 地区別の子育て支援連絡会を開催し、地域ケアプラザ単位での地域における出生数等のデータを活用して、地区の状況を参加者と共有した。
- 第5期「みどりのわ・ささえ愛プラン」区民アンケートの結果や人口動態のデータを提供し、策定の際に活用した。



B-2 ネットワーク

重点項目 B-2 課題解決に取り組む推進体制づくり


- 子育て世代と地域が共に育つまちを目指して、みどり子育て支援交流会を開催し、まちづくりと子育て支援を一緒に考える機会となった。
- 医療・介護連携を目的にネットワークを構築し、ACP(※1)意見交換会を行った。医療機関と介護事業者、地域包括支援センター等の多職種が集まり、「病院と在宅でもしも手帳(※2)をどう活かすか」をテーマに意見交換を行った。
(※1)ACP:将来の医療及びケアについて、本人を主体に、その家族や医療・ケアチーム等と繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援する取組
(※2)もしも手帳・簡単な3つの質問に答えることでもしもの時にどのような医療やケアを望むのか前もって話し合い、思いを伝えるための手帳
- 区レベル地域ケア会議では、区域全体のテーマとして「見守り」を取り上げ、区内の好事例の共有と地域で実践できる具体的な取組について講義と意見交換を行った。
- 区レベルセーフティネット会議を開催し、複雑で多様化する課題に対応するため、学びの場を提供するとともに、生活困窮者自立支援制度の周知及び関係機関との連携の強化を図った。

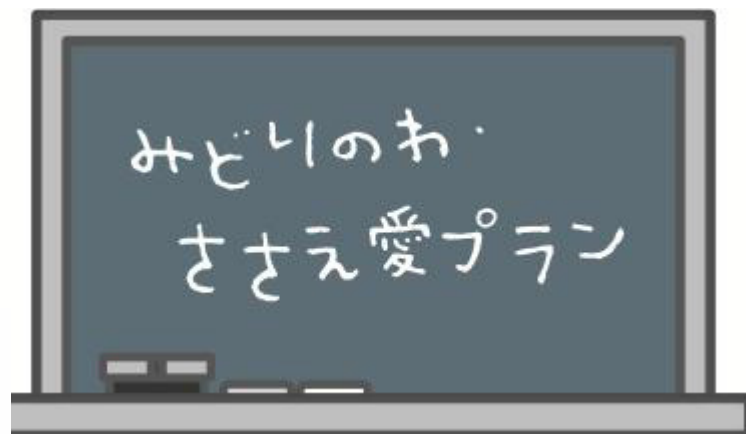


B-3 相互理解

重点項目 B-3 様々な背景を超えた住民相互理解の風土づくり

- みどり地域活動ホーム あおぞらと区役所の共催により、障害の有無や世代を問わず、誰もが共に音楽やダンスを楽しめるイベント「MFES(エムフェス)」(midori music dance festival)を初開催した。
- 障害者週間(12/3~12/9)に合わせて、区役所では障害福祉事業所の製品のPRや区の魅力発信を目的としたラッピングバスを運行した。地域ケアプラザと地域の障害福祉事業所が協力し、作品展示や講座などを通じて、障害への理解を深める取組を進めた。
- 地域ケアプラザにおいて、障害福祉事業所の作品展示、各事業所による商品販売会やポッチャ交流会、弦楽器によるカジュアルコンサート等のイベントを実施した。
- 地域ケアプラザが区内小中学校、高校における高齢者疑似体験、車いす等を用いたポッチャ体験、認知症サポーター養成講座等を実施した。
- みどり国際交流ラウンジが地域ケアプラザで、ごみの適切な出し方や防災に役立つ情報などを地域の外国人に伝える「生活ガイダンス」を開催した。
- 地域ケアプラザからグループホームに案内し、一緒に地域の防災拠点訓練に参加することで、地域住民の障害理解へつながった。

- 地域ケアプラザ周知のため、地元のスーパー、医療機関、郵便局など様々な場所に向いて周知活動を行い、地域ケアプラザから離れた自治会等に向いて講座を実施した。
 - 就学前のお子さんのいる世帯に向けて、親子のお出かけ先や相談先を紹介した「みどり子育て応援ガイドブック」を作成し、子育て情報を発信した。また、広報よこはま緑区版 11月号では、こどもの権利や児童虐待防止をテーマとした特集記事を掲載し、相談先を周知した。
- 
- 市民一人ひとりが自らの生き方を選択し、最後まで自分らしく暮らせるように緑区版エンディングノート「My Life」の普及啓発講演会を実施したほか、広報よこはま緑区版3月号でエンディングノートともしも手帳について周知した。
 - 家庭で余った未使用の食品を区役所や地区センターなど6か所の常設ボックスで回収し、食を必要としている地域の方々へ社会福祉協議会を通じて提供するフードドライブ事業を実施した。
 - 乳幼児健診で区役所に来所した親を対象に、大腸がんクイズや乳がんの触診体験を行い、がんに対する正しい知識の普及とがん検診の啓発を行った。





B-5 協働による推進

重点項目 B-5 多様な主体と連携・協働した施策展開

- ダイエーやマルエツによる移動販売、ヤクルトや資生堂、POLA による健康・美容講座を通じて、高齢者の暮らしを支える取組を行った。さらに、カゴメの健康チェックや企業と連携したスマホ講座、相談会などを実施し、企業の力を生かした事業実施により、健康づくりや生活支援などの取組が広がった。
- 「緑区環境・防災まるごとフェスティバル！」では、無印良品 500 ビーンズ中山、日産神奈川販売株式会社に協力いただき、体験型ワークショップ、スタンプラリー、クイズ、講演会等のイベントを開催した。
- 区の各事業において区内の大学と連携するとともに、広報よこはま2月号において、連携事例や大学の取組を紹介する特集記事を掲載した。(掲載した取組:子どもアドベンチャーカレッジ、こどものまちづくりイベント、わくわく科学実験教室、竹山団地プロジェクト、緑図書館開館 30 周年記念事業、みどりサンタプロジェクト、地域における清掃活動)

プランの周知に関する取組

- 令和7年度 みどりのわ・ささえ愛プラン講演会では、令和8年度にスタートする第5期地域福祉保健計画に関する講演会と、「みんなで進める地域のつながりづくり」をテーマに、地域の活動報告を含めたパネルディスカッションを開催した。
※詳細は、P39「みどりのわ・ささえ愛プラン講演会」をご覧ください。

- みどりのわ・ささえ愛プランを周知するための不織布バッグ、アクリルキーホルダーを作成し、講演会の参加者等に配布した。



▲不織布バッグ



▲裏面に緑区ホームページの二次元コードを記載したアクリルキーホルダー

- 第5期計画策定にあたり、緑区キャラクター「ミドリん」の新たなデザインを作成した。



▲ささえ愛プランを周知するミドリん

3 参考指標について

「第4期みどりのわ・ささえ愛プラン」では、それぞれの重点項目の進捗状況をはかるために指標を設定し、年度ごとの振り返りの際に活用しています。

※ 指標の数値については、令和8年3月末、カッコ内は令和7年3月末の数値を記載しています。

重点項目 A 地区別計画を支える取組

重点項目 A-1 地域活動の担い手・人材の確保及び育成

〈参考指標〉

ボランティア活動登録数 839件（827件）

重点項目 A-2 地域活動団体の運営支援

〈参考指標〉

「活動・交流の場」の新規開設支援件数 43件（36件）

事例の周知…地区別計画推進策定委員会の部会における、見守りチェックシート作成にあたり、他地区のシートや取組について情報提供を行い、地域に新たな見守りのネットワークが充実しました。

また、こども食堂の立上げ支援や、健康麻雀団体と高校による健康麻雀大会の開催に向けサポートしました。

重点項目 A-3 地域の活動及び交流の機会・場づくり

〈参考指標〉

住民主体の活動・交流の場の把握数 675件（679件）

重点項目 A-4 地域活動の情報伝達の工夫

〈参考指標〉

地域情報発信の仕組みづくり（地域ケアプラザ）…区内の会館に団体紹介コーナーを設け、利用者に団体の活動について周知し、ボランティア募集の支援を行いました。

ホームページ上で情報を入手しやすくするため、新しい講座やイベントはトップページにまとめるようにしたほか、講座案内をカテゴリー別にするなど閲覧しやすい方法で更新しました。

誰でも参加できる講座等を月ごとに見やすくまとめた、『通いの場』カレンダーを作成し、地域に配布しました。

重点項目 A-5 地域における見守り体制の充実

〈参考指標〉

見守りに関する地域住民との会議開催回数 358件（315件）

重点項目 A-6 多様な主体と連携・協働した地域活動支援

〈参考指標〉

多様な主体と連携した地域活動支援件数 117件（108件）

重点項目 B 区域全体での取組

重点項目 B-1 データを活用した施策推進

〈参考指標〉

データ活用会議実施回数 176 件（156 件）

重点項目 B-2 課題解決に取り組む推進体制づくり

〈参考指標〉

ネットワーク構築に資する会議等開催回数 130 件（120 件）

重点項目 B-3 様々な背景を越えた住民相互理解の風土づくり

〈参考指標〉

多様性理解・啓発の取組実施回数 122 件（125 件）

重点項目 B-4 身近な地域で支援が届く仕組みづくり

〈参考指標〉

成年後見制度に係る相談支援件数 122 件（136 件）

生活困窮者自立支援に係る相談しやすい体制や風土づくりの取組…生活困窮者自立支援制度を周知するため、広報よこはま緑区版 1 月号に特集記事を掲載したほか、行政情報モニターで動画を配信、区内ケアマネジャーや地区民生委員・児童委員向けに制度周知の出前講座を開催した。

重点項目 B-5 多様な主体と連携・協働した施策展開

〈参考指標〉

事業展開事例…「子どものまちづくりイベント」では、村田製作所、ジェーピーエス製薬、東洋英和女学院大学、ミスティックフラワー、桐蔭横浜大学 医用工学部 石河研究室、Creative Green やフラワーショップ花市場（十日市場）に協力いただき、子どもたちが考えた「持続可能なまち」の運営や体験型ワークショップを開催した。



4 みどりのわ・ささえ愛プラン講演会（第44回緑区社会福祉大会 第2部）

令和8年3月3日（火）、みどりのわ・ささえ愛プラン講演会を緑公会堂にて開催しました。今回は、緑区社会福祉大会の第2部として開催し、日頃から地域で福祉・保健などの地域活動に携わっている方々を中心に、301名の皆様にご参加いただきました。

当日の様子

当日は「みんなで進める 地域のつながりづくり～新しい“ささえ愛プラン”とともに」をテーマに、講演とパネルディスカッションの2部構成で行いました。

① 講演

講師には田園調布学園大学副学長・教授で、みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会座長の村井祐一先生をお招きし、お話をいただきました。先生のお話の中にありました、ポイントをご紹介します。

■みんなで進める 地域のつながりづくり ～新しい“ささえ愛プラン”とともに～

○この計画には、第1期から関わっているが、取組が進めば進むほど、「つながりづくり」が大切であると感じている。制度やその運用なども大切だが、地域に住んでいる人たち同士の「つながり」や「温かいお節介」なども大きな力を持っている。

○「最近、近所で見かけなくなった人がいる」、そういうことに気づけるといのは、普段から「つながり」を持っているということである。

○緑区の現状としては、要介護認定を受けている人が9,000人程度おり、単身世帯も増えてきている。自治会加入率も年々低下している。一方で、区民の約9割が日頃からの「つながり」が大事だと考えている。

○自治会加入率の低下は、孤立化するリスクを高める要因にもなりうる。普段の顔が見える関係づくりが非常に大切であり、また必要だといえる。

○また、調査によれば、緑区には、「地域活動に参加してもよい」という人が約7割もいる。きっかけさえあれば、参加につながると思われる。緑区には、既に「土壌」が出来上がっているといえるのではないか。

○このプランについては、ただ闇雲に取組を進めるのではなく、いろいろな方の意見を聞きながら、それを整理しながら、優先順位をつけ、役割分担を明確にして進めていくことが重要である。

○今回、策定された第5期のプランについては、次のような特徴がある。

①3層構造によるモレのない計画、②データを使った地域づくり、③「5つの重点ポイント」を定めたことの3点である。②については、データに基づいて、客観的に課題を示し、数値で表せるものについては、数値目標を設定した。また、「目指す姿」として、達成した時の状況を具体的にイメージできるようにしている。③に関しては、「社会的な孤立を防ぐこと」、「安心して暮らすために必要な活動の充実」、「多様性の理解の推進」、「健康づくりや介護予防の活動への参加促進」、「幅広いネットワークによる、複合化、多様化した課題への対応力向上」の5つが掲げられており、いずれも重要なポイントであると言える。

○（ここまででお話した、区域計画に加え）地区別計画も大切にしていかなければならないものであると考える。緑区には、11の地区があるが、特徴は様々である。地区別計画はより身近な話として、「自分ごと」として捉えやすいものである。地区別計画は、住民同士や行政、関係機関とが力を合わせて、まちづくりを進めていく“根拠”にもなるものであり、大変重要なものである。ぜひ、地区別計画を活用しながら、「誰もが安心して暮らし続けられる緑区」を目指してまちづくりを進めていただきたい。



▲村井祐一先生

② パネルディスカッション

コーディネーターは、引き続き、村井先生にお願いし、パネリストには、区内で活動されている、霧が丘地区の岩上成輝さん、長津田地区の福田幹男さん、田中成男さんをお招きしました。活動されている方ならではの貴重なお話を聞くことができました。

★パネリストの皆さんへの質問

- Q1：「**つながりづくり**」を進めるうえで、**大切**にしていることは？
- Q2：「**みんなで**」取組を進める、「**仲間を増やす**」ために工夫していることは？
- Q3：これから活動を始めようとしている人への**メッセージ**



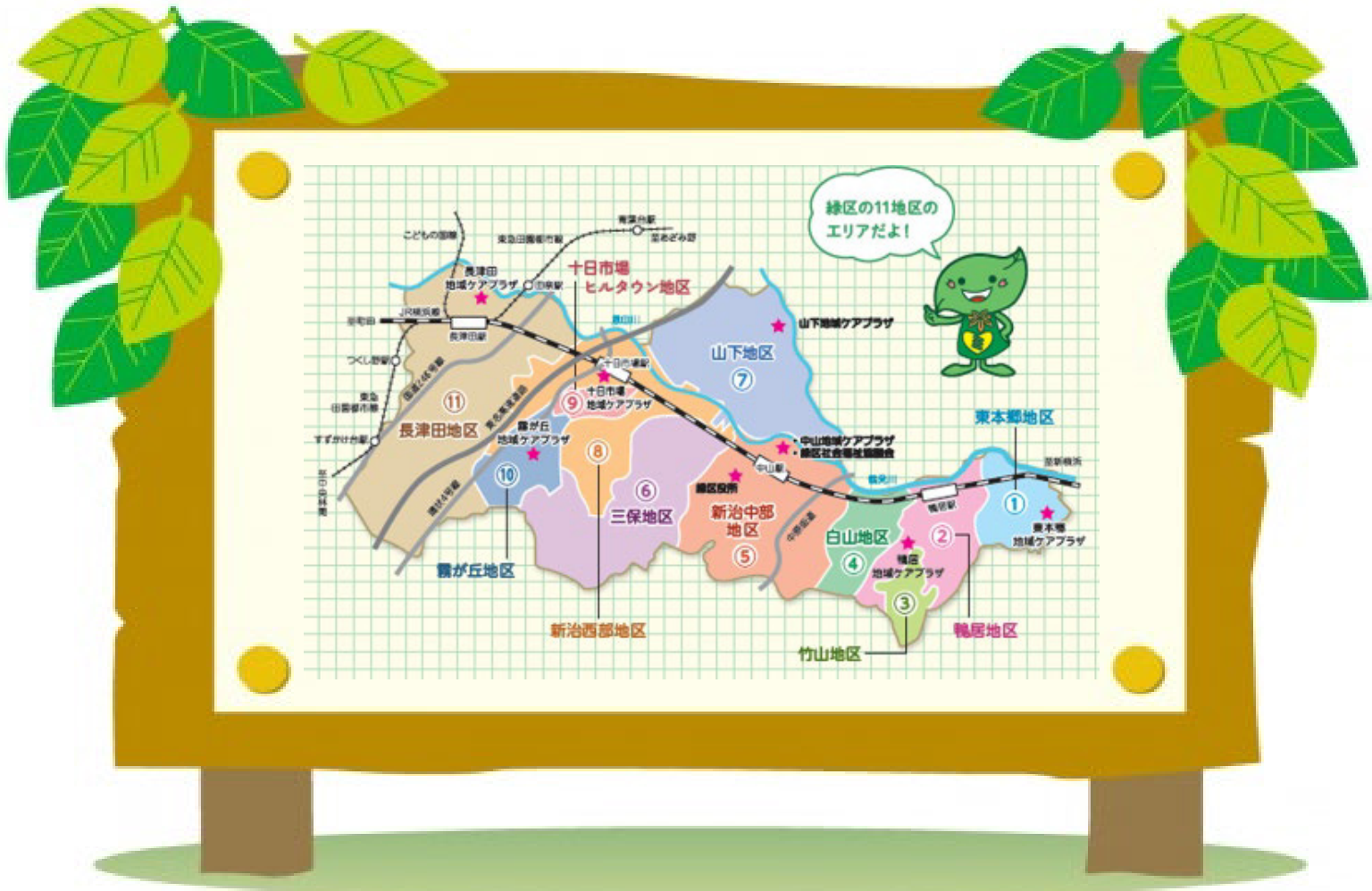
▲左から、霧が丘地区 岩上さん、長津田地区 福田さん、田中さん

霧が丘地区 岩上さん

- A1：「つながり」については、自治会や管理組合などの「機能的な」つながりが基本にあって、そこで出会った人たちが、さらに別の機会でつながって、つながりに広がりが出るものと考えている。今回、発表のなかでお話した高齢者対策懇談会も、そういった「つながり」の中から自然に生まれた活動である。また、活動の中で問題が発生した時にも、「機能的な」つながりを基に、新たな「つながり」づくりや「仕組み」づくりにつなげていけると思う。
- A2：いろいろと工夫をしているが、今のところ、決定打と呼べるものは見つかっていない。ただ、強制的に活動に巻き込むというのは難しいと思っている。スポット的に協力できることを設けることで参加しやすくするなどの工夫は必要だと思う。そして、一番大切なことは強制しないようにし、参加のハードルを下げることだと思う。
- A3：地域活動に関わっている人のほとんどは、「自分のまちをよくしたい」という気持ちがあって、活動していると思う。その思いを大切にしながら、活動を通して、その思いを次の世代に伝えることが大切だと思うので、ぜひ、できることから取組を始めてほしいと思います。

長津田地区 福田さん、田中さん

- A1：新しい地区別計画のスローガンにもあるが、まずは「あいさつ」が大切だと考えている。「あいさつ」をきっかけにして、「つながり」を作れるようにしたい。今後も、原点に立ち返り、長津田では、「あいさつ」を大切にしながら、いろいろな活動を進めたい。また、「つながり」については、各団体や地域の事業所との「つながり」も大切にしている。お互いがお互いのことを理解しながら、連携していくことが大切だと思う。
- A2：もともと高齢者のために、買い物マップを作成したが、いろいろな人と関わることで、子育て世代の人にとっても必要な情報であることがわかった。いろいろな人と関わることは、仲間を増やしたり、活動を広げることにもつながるのではないかと考えている。ツールを作っても、使い方や対象などを限定することなく、自由に使ってもらうようにしている。また、できる人ができる範囲で活動することが大切。決して無理をしない、させないことも重要。
- A3：とにかく、無理はしないで活動してほしい。時に大変なことあるとは思いますが、楽しいこともたくさんあるので、そちらの側面にも目を向けてもらえたらと思う。自分のできる範囲で、活動を続けることで、いろいろなことがそこから広がっていくと思います。



プランの詳細は、ホームページをご覧ください。

みどりのわ・ささえ愛プラン

検索



第4期 緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」

令和7年度 推進状況報告書

<2026 (令和8) 年6月発行>



～編集・発行～

横浜市緑区役所 福祉保健課 事業企画担当

〒226-0013 横浜市緑区寺山町 118

電話 045-930-2304 FAX 045-930-2355

電子メール md-fukuhoplan@city.yokohama.lg.jp

社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会

〒226-0019 横浜市緑区中山 2-1-1 (ハーモニーみどり内)

電話 045-931-2478 FAX 045-934-4355

電子メール midori00@yokohamashakyo.jp